指導計画案

展開	導入	展開	まとめと発展
指導上の重点目標	1 文体や文章の変遷をたどることを通して、我が国の言語文化に対する理解を深めさせる。	2 明治期の文語文と口語文を読み、さまざまな文体の特徴を学ばせる。 3 古典編・漢文編の学習と合わせて、和文脈・漢文脈の延長線上に近代の文体・文章が成立していることを理解させる。	
学習活動	① 「〔参考〕明治期の文語文と口語文」の序文（一七七ページ）を通読する。 知技	① 樋口一葉「大つごもり」（一七七・上14～一七八・上15）を通読する。 知技・思判表 ② 北村透谷「我牢獄」（一七八・上16～一七九・上4）を通読する。 知技・思判表 ③ 清水豊子「敢て同胞兄弟に望む」（一七九・上5～下12）を通読する。 知技・思判表 ④ 三遊亭円朝「怪談牡丹灯籠」（一七九・下13～一八〇・上16）を通読する。 知技・思判表 ⑤ 二葉亭四迷「新編浮雲」（一八〇・上19～下20）を通読する。 知技・思判表	① 各文章の文体の特徴をまとめる。 主態
指導上の留意点	序文で触れられている各作家の文体の特徴を理解したうえで、各作品を通読させる。音読や範読などを通して音声から文体の特徴を感じさせるのもよい。		